

登録番号 第 20979 号

モンガリット®粒剤

- 特長：
- 稲の紋枯病・疑似紋枯症・稲こうじ病・墨黒穂病・穂枯れ、ねぎの黒腐菌核病・小菌核腐敗病・黒穂病・白絹病などに有効です。
 - 根からすばやく吸収され速効性に優れます。
 - 稲での使用適期は出穂2～3週間前です。

モンガリットは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・1.5%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

2023年10月18日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(灰色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 稲こうじ病 墨黒穂病	3～4 kg/10a	収穫30日前 まで	2回 以内	湛水散布	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 穂枯れ(すじ葉枯病菌)	4kg/10a				
未成熟とうも ろこし	紋枯病	6kg/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	株元散布	2回以内
レタス	すそ枯病	9～12 kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
	ビクバイン病	12kg/10a				
非結球レタス	すそ枯病	9～12 kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
キャベツ	株腐病	6kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
にら	白絹病	6kg/10a	定植前	1回	作条土壌混和	1回
ねぎ	黒腐菌核病	6kg/10a	生育期 但し、 収穫14日前まで	3回 以内	株元散布	3回以内 (は種時は1回以内)
	小菌核腐敗病	4～6 kg/10a				
	白絹病 小菌核病		は種時	1回	土壌表面散布	
	黒穂病					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	苗立枯病(リゾクトニア菌)	4~6 kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	1回
ごぼう	黒あざ病	9~18 kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	1回
にんにく	黒腐菌核病	18kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	6回以内 (植付前は1回以内、 植付後の株元散布は 2回以内、 散布は3回以内)
	白絹病	6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫 75日前まで (茎葉展開期)	2回 以内	株元散布	
こんにゃく	白絹病	4~6 kg/10a	培土時 但し、収穫 120日前まで	3回 以内	株元散布 (散布後土寄せ)	3回以内
とりかぶと (薬用)	白絹病	9kg/10a	培土時	3回 以内	株元散布 (散布後土寄せ)	3回以内

使用上の注意事項

- (1) 稲に使用する場合、散布に当たっては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後は少なくとも3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。なお漏水の激しい水田では使用をさけること。
- (2) ねぎの定植後に使用する場合、冬季に定植する作型では生育が抑制されるおそれがあるので使用をさけること。
- (3) ねぎ及びにんにくの白絹病に使用する場合、土寄せ前~土寄せ後に本剤を株元散布すること。
- (4) 本剤が不均一に混和された場合、薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、十分に混和すること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法ではその該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。